

自体非常に渦度が非常に中心付近に集中していて、場の方が台風予報の場合難しい、むしろ温低化して周辺場とのインタラクションを起こしている方が予想として当たっている。ですから日本付近にきますとアジアモデルがかなり有効に働いているという意味では逆に裏を返していきますと、温低化が非常によく表現されてきているということにある。更にこれからグローバルモデルのメッシュが細くなり、更に側面境界もよくなるし、全体の予報もよくなるのではないかと思っています。その様な答でよろしいでしょうか。

あとがき

沖縄での大会だから、シンポジウムのテーマはやはり、台風以外はないと沖縄大会準備委員会であっさり結論がでた。そして、講演者との連絡調整をかねた座長も現地の人がいいだろうということ、これもあっさりきまった。しかし、本年4月、座長の一人が沖縄本島から南大東島に転勤になったため座長相互間や座長と講演者間

でややスムーズな連絡調整をかけたが、大会前日の正午食事時間を利用して、座長と講演者が一室に会合する機会がありましたおかげで、なんとか調整しあうことができました。

講演も討論も全般的には円滑にとり行われましたが、ただ総合討論の部では、韓国気象学会長の英語による質疑や論点がつかみにくかった、台風進路と総観場との関連に関する金城氏の質疑を、座長がとりなすのに苦慮したため一時討論が中断するなどのハプニングがありました。シンポジウムを公開制にし、いろんな言語の方、いろんな職種階層の方々に参加してもらう時には、かようなことがありうることを念頭におき、今後はシンポジウムを企画される必要があると感じました。

招待客の韓国気象学会長や各受賞者の記念講演がシンポジウムの時間帯にくいこんできたので、シンポジウムの講演や討論の時間帯をきりつめてもらいました。かようなことで、講演者および出席の皆さんにだいたい物理的にも心理的にも負担をおかけしたことを申し訳なく思いました。

会員の広場

日本気象学会は元号表示をやめよう

学術論文において年の表示に西暦を用いるのは常識だし、また、機関誌「天気」の表紙も西暦に統一されて久しい。それなのに「天気」の中身には、所々に平成の元号がある。ことしの1月号でいえば、

- P. 40 事務局からのお知らせ
- P. 56 北海道支部の研究発表会の記事
- P. 75 第26期役員選挙告示

などである。甚だしきは、

- P. 76 日本気象学会および関連学会行事予定

であり、ひとつの表の中に西暦と平成とが混在している。日本気象学会は公には平成を用いることとしている由、それは多分、官庁に対する政府の方針を、そのまま受け継いでいるのだろう。

元号については人それぞれに見解はあろうが、閉鎖的

で、時代錯誤な代ものであることは事実だし、過去・将来の計算にも不便だ。国際的であるべき気象学会が、いつまでも、こんなものに捕らわれているのは、決して賢明なこととは思えない。会員の意識の切り換えのためにも、また、後世の仲間達のためにも、次のように西暦に統一することを提案したい。つまり、

- 1) 大会など、自機関の催しでの表記
- 2) 他機関の記事、個人の投稿などで元号が使われていたら、編集の段階で変更を求める。(勿論、著者の同意が得られないときにはやむを得ない。)

その他、理事会マターのこともあろうから、まず、この「広場」での、会員諸氏の議論を期待する。

(櫃間道夫)